

鹿島線 涸沼橋りょう

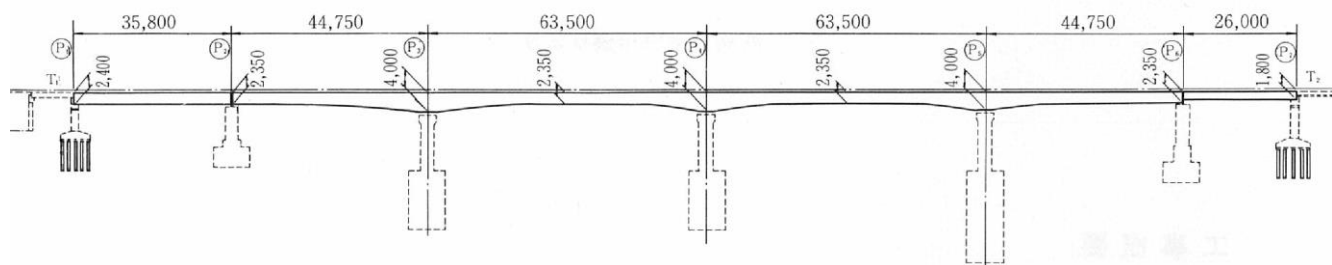
架設桁を用いた場所打ち張出し架設工法



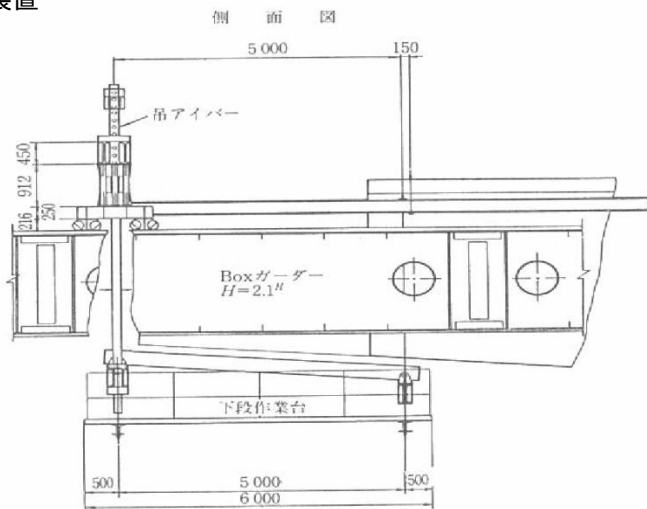
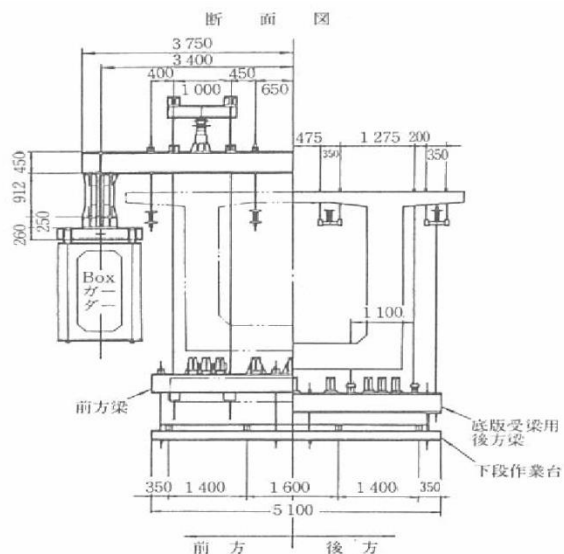
施主	日本鉄道建設公団
施工場所	茨城県東茨木郡大洗・常澄町平戸地内
完成年	1981年
橋長	278.3m
形式	単純桁、4径間連続箱桁橋、単純桁
支間	$35.8\text{m} + (44.75\text{m} + 2 \times 63.5\text{m} + 44.75\text{m}) + 26.0\text{m}$
全幅	6.02m
設計荷重	KS-16 (鉄道橋) 単線(バラスト軌道)
架設工法	架設桁を用いた場所打ち張出し架設工法
参考文献	プレストレストコンクリート 1980年 No.6, 1989年 特別号

2連の架設桁を用いて、これを支保工として現場打ちで片持ち張出し架設を行った橋りょうである。架設桁を通路、資材運搬に使うことができるので栈橋、ケーブルクレーンなどの設備が不要である。架設桁が2径間にわたって据え付けられているので先行して柱頭部の施工ができる。同様の施工方法を用いた橋梁として秋田県の新雄物川橋(1987年竣工)がある。類似の施工方法としてP&Z工法がある。

側面図



型枠装置



完成写真



型枠設備



橋脚上の架設桁の支持装置



手延べ先端の到達